



# Patient Information Sheet (Japanese) 患者向け情報シート MRI Contrast MRI 造影剤

## 1. MRI 造影剤とは何ですか？

医師から受けるように指示された医療画像 MRI 造影検査では、MRI 造影剤を使用することがあります。MRI 造影剤は患者の血管に注射される無色の液体で、染料ではなく、体内を染めるものではありません。MRI 造影剤は、医療画像 MRI 造影検査中に臓器がよりはっきりと見えるようにするため使用されます。患者の診断に役立つ必須情報を全て得られるようにするため、医師は MRI 造影剤を使用する必要があります。この情報シートは、予約をした検査の情報シートと一緒に必ず読んでください（この情報シートを持っていない場合は、頼んで入手してください）。

## 2. 検査中

MRI 造影剤を注射しても、通常は特に変化を感じることはありません。

## 3. 検査後

MRI 造影剤は普通の活動を行う能力に影響するものではなく、通常は普段通りに生活することができます。

## 4. 注意事項

患者の中には MRI 造影剤が適していない方もいるため、MRI 造影剤の投与前にいくつかの質問をします。患者の答えによってスタッフは何らかのリスク要素があるかどうかを確認することができます。

- 妊娠中または妊娠の可能性がある、もしくは授乳中の場合はスタッフにお知らせ願います。

### 腎機能

- MRI 造影剤は腎臓が尿を出すことにより、血液から排出されます。腎機能が正常な方の場合には簡単に体外へ出されます。
- 腎機能が低下している方（いわゆる腎疾患の方）の場合は、MRI 造影剤を体外へ排出することができません。これは腎性全身性線維症（NSF）という極めてまれな疾患を起こすこともあります。
- NSF の症状として全身の皮膚と組織に癍痕ができ肥厚します。この癍痕によって筋肉または腱、靭帯、皮膚が硬化し、そのため通常の動作と機能ができなくなることがあります。この症状は深刻な障害を引き起こし、結果的に死亡することもあります。
- 患者は腎機能のレベルを確認するために簡単な血液検査を受けるよう指示されることがあります。

## 5. MRI 造影剤に伴うリスクは何ですか？

MRI 造影剤は以下を含むリスクと合併症を伴うことがあります。それらに限定されるわけではありません。

よくあるリスクと合併症は以下を含みます。

- よくある既知のリスクはありません。

たまにあるリスクと合併症は以下を含みます。

- 注射した造影剤が血管外に漏れ、皮下から組織へ入ることがあり、このため治療が必要になることがあります。極めてまれなケースとして、もし皮膚が損傷した場合はさらに手術による処置が必要になることがあります。
- 医学的および/または技術的理由のため注射が不可能なことがあります。

まれにあるリスクと合併症は以下を含みます。

- アレルギー反応は最初の 1 時間以内に発生し、大半は最初の 5 分間に起こります。

反応の程度は以下の通り様々です。

軽度 - 頭痛、軽い吐き気、めまい、じんましん、発疹、かゆみ

中等度 - 広範囲のじんましん、頭痛、顔の腫れ、嘔吐、息切れ

重度 - 重度の反応はまれですが次を含みます。

生命に危険を及ぼす心悸亢進、大幅な血圧低下、気道の腫れ、けいれん、および/または心停止

- 重度の腎機能障害患者のみ、腎性全身性線維症（NSF）
- この検査の結果として死亡することは極めてまれです。

## 6. 病院を出た後の注意点は何か？

もし気分が悪くなった場合は、もよりの救急救命センターまたは一般開業医へ行ってください。

### 医師/医療関係者と相談する事柄のメモ:

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....



**Queensland  
Government**

**PATIENT INFORMATION SHEET ONLY**

**NO DOCUMENTED CONSENT REQUIRED**

*Unless patient is renal impaired*

If a documented consent is required  
Interpreter Services *must* be accessed